

# 福島大学 芸術による地域創造研究所活動報告書

所 長 渡邊 晃一

## ○研究目的

芸術による地域文化創造の学際的研究

## ○研究メンバー

＜研究代表者（研究所長）＞

人間発達文化学類 渡邊 晃一

＜研究分担者（プロジェクト研究員）＞

人間発達文化学類 初澤 敏生

人間発達文化学類 澁澤 尚

人間発達文化学類 小島 彰

行政政策学類 久我 和巳

行政政策学類 田村 奈保子

経済経営学類 後藤 康夫

うつくしまふくしま未来支援センター

天野 和彦

人間発達文化学類 名誉教授 澤 正宏

共生システム理工学類 名誉教授 星野 珉二

＜連携研究者（プロジェクト客員研究員）＞

いわき市立美術館・館長 佐々木 吉晴

喜多方市美術館・館長 後藤 學

福島県立博物館・主任学芸員 川延 安直

福島県立博物館・主任学芸員 小林 めぐみ

福島県立美術館・主任学芸員 増渕 鏡子

福島県立美術館・主任学芸員 國島 敏

郡山市立美術館・主任学芸員 杉原 聡

東京学芸大学・准教授 笠原 広一

会津大学・教授 柴崎 恭秀

福島県立医科大学・非受勤講師 後藤 宣代

桜の聖母短期大学・非常勤講師 安室 可奈子

宗像窯窯元／陶芸家 宗像 利浩

NPO 法人コモンズ・理事長 中里 知永

## ○研究活動内容

### I. 研究活動の概要

#### 1. 研究テーマ

芸術による文化活動を通じた街づくり  
地域の活性化に関する実践的研究

#### 2. 研究概要

芸術による地域創造研究所は、学系の専門的領域を横断した学際的な研究を推進し、県内の文化施設の研究員によって構成される複合的

な組織である。研究内容としては以下の7件があげられる。

(1) 芸術文化による街づくりの意義に関する研究

(2) 芸術文化を通じた地域の活性化の事例研究

- ・国内外の事例収集
- ・成功要因の分析、調査

(3) 県内モデル地域における文化政策研究

- ・地域の文化資源の洗い出しとネットワーク化の研究
- ・地域産業と連携した研究支援
- ・デザイン（新たな商品開発、ブランディング）

(4) アートイベントの企画と運営による実践研究

- ・芸術祭の企画監修、アドバイス
- ・モデル地域における芸術企画の実践研究

(5) 芸術文化による国際交流

- ・ビエンナーレ、シンポジウム

(6) 東日本大震災後の復興における支援活動

- ・「鯉アートのぼり」
- ・「緊急災害時の避難所空間のユニバーサルデザイン」

(7) 学生の学習効果の検証

- ・演習：「芸術企画演習」
- ・講義：「現代アートマネージメント（COC）」

## II. 平成 29 年度の研究報告

### 1. 主な研究

(1) 「重陽の芸術祭」

二本松市（智恵子の生家、ふるさと村、道の駅安達、岳温泉、他）  
福島県地域づくり総合支援事業

(2) フォーラム「黒塚」

(3) 緊急災害時の避難所空間におけるユニバーサルデザイン

(4) 「鯉アートのぼり」福島市街地

(5) ポスター制作「二本松の菊人形」菊栄会

(6) 芸術活動を通じた街づくりの研究調査・岳温泉

(7) 第 69 回全国植樹祭大会シンボルマーク 審査員

(8) 「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト」実行委員、企画：福島県立博物館



## 2. 研究概要

### (1) 「重陽の芸術祭」

芸術による地域創造研究所は「まちづくりと芸術プロジェクトの連携」を研究の支柱として掲げ、伝統文化と地域創造の育成を図るうえで、大学の知的財産を広く社会に寄与し、県内の文化施設の研究者と共に学系の専門的領域を横断した複合的・学際的な研究を推進してきた。福島大学と福島県の博物館、美術館等の文化施設を拠点とした教育、文化機関との連携事業を行う場となっている。

平成 29 年度は東日本大震災後の復興活動として、福島の拠点となる文化的な機関との連携活動を支柱として、二本松市と協働で「まちづくりと芸術プロジェクトの実践研究」を推進した。

二本松を中心に、昨年度開催された「福島ビエンナーレ 2016」における芸術文化活動のプロジェクトを実施する中で、新しく始動した「重陽の芸術祭」は、9月9日の「重陽の節句」をキーワードに、国際的な交流と専門的領域を横断した学際的な研究を展開する目的がある。

「重陽の節句」は、日本酒に菊を浮かべて不老長寿を願う「長寿の節句」。菊を眺めながら宴を催し、菊を用いて厄祓いや長寿祈願をする「重陽の節句」は、五節供（他に1月1日、3月3日、5月5日、7月7日）の中で最も重要な日であった。

二本松城（霞ヶ城）は全国一の規模をほこる菊人形祭が開催されており、菊は古来より葉草としても用いられ、延寿の力があるとされてきた。菊は他の花に比べて花期も長く、日本の国花としても親しまれている。

日本一の「菊人形祭」とその会場となる二本松城（霞ヶ城）に関わる文化資料の他に、二本

松には、安達が原の鬼婆「黒塚」伝説の史跡や智恵子の生家がある。

「重陽の芸術祭」では、安達が原の鬼婆伝説、智恵子抄、菊と日本酒に関連させ、「長寿」をテーマに、ワークショップやシンポジウムを開催した。

さらに二本松は、東日本大震災と福島原子力発電所の被災地となった浪江町をはじめとした地域の避難所が多数設置されている。地域の人々との協働活動を軸に、新しい価値観を提供する機会と、子どもたちが地域文化に魅力を感じ、未来に向かって夢と活力を感じてもらえるような価値観を築いていくための一助として、本活動を展開した。

プログラムの選定・制作・進行は、福島大学の教員・学生と地域の協力者（二本松市役所、二本松振興公社の職員、地域住民など）と共同して考案した。市内小中学校への広報等も県や市の教育委員会の後援も依頼した。結果、本企画の活動を契機に、福島大学と地域とのつながりを強め、広く福島大学から発信する地域の文化活動を推進できた。

### 「重陽の芸術祭」

日程 2017年9月9日～11月23日

会場：

\*二本松市

- ・二本松市大山忠作美術館
- ・福島県立霞ヶ城公園 二本松城本丸跡  
「二本松の菊人形」
- ・国田屋醸造 千の花
- ・大七酒造
- ・二本松市智恵子記念館 智恵子の生家
- ・天台宗真弓山 観世寺
- ・安達ヶ原ふるさと村
- ・道の駅「安達」智恵子の里
- ・和紙伝承館

### (2) フォーラム「黒塚」

～二本松・安達が原を起点とした、芸術家、文芸評論家、民俗学者による国際会議～  
平成 29 年 9 月 9 日～平成 29 年 12 月 16 日

黒塚(二本松・安達が原の鬼婆)の伝承を基に、芸術家、民俗学者・文芸評論家が集う企画を三つ開催した。

#### ①「黒塚」の作品制作と展示

9月9日～11月23日 安達が原ふるさと村  
福井利佐、岩根愛、月岡芳年、手塚治虫、夢枕獏



活動に多様性を示すものとなった。大学院、学類の授業における人材育成カリキュラムの教育的な効果とも合致している。避難所の現状調査とパーソナル・スペースのユニバーサルデザインの開発する一連の研究活動を通じて、得られる知識と経験は、地域文化を支援する人材を育成する活動にも関わってくる。



備蓄品 分類シートのデザイン

避難所のダンボールによるデザイン研究

#### ◇ 研究（計画）の学術的な特色・今後の展望

福島大学芸術による地域創造研究所は、福島県の地域文化を様々な角度から支援してきた。

本研究所の実践研究「福島現代美術ビエンナーレ」は、平成 22 年度文化庁人材育成事業における推奨事業として評価を得た。さらには近年、科学研究費の項目に「アートマネジメント」が加わり、文化庁では「大学を活用した文化芸術推進事業」が提起されているなかで、福島大学はいち早く、地域と連携した芸術文化活動を展開してきたともいえる。日本では現在、多彩な芸術文化活動を支えるアートマネジメント（文化芸術経営）人材について実践的能力の向上等を含めた養成を推進する実践的なカリキュラムを開発・実施し、開発されたカリキュラムを広く他大学等に周知・普及させることが求められている。

一方、近年の文部科学省、文化庁や経済産業

省の報告書には、地域文化をテーマにした学際的研究を大学で行うことの重要性もあげられている。

しかしながら芸術文化を基盤とした研究領域の専門間で複合的・学際的な研究が、日本では十分に推進されてきたとは言い難い。芸術文化の専門的領域を横断した学際的な研究は、国際交流とともに、地域社会の連携に寄与するものとなるだろう。

福島大学は 2004 年 4 月に国立大学法人となり、新たに理工学群（共生システム理工学類）を創設、従来の 3 学部を人文社会学群の 3 学類（人間発達文化学類・行政政策学類・経済経営学類）として継承し、文系と理系を含む総合大学に学部再編成を行った。

2004 年から開催されてきた「福島現代美術ビエンナーレ」は、このような新学類との関連から新規に開講した「芸術企画演習」等の受講生を中心に運営されてきたものである。本演習では、作品と人、人と人との交流を生み出すための芸術企画のマネジメントを、総合的な芸術企画の運営や実施までの一連の作業を通じて、参加学生が地域を活性化させる文化事業の意味や意義を修得し、地域に求められる知識と技術、経験を広く理解する機会となってきた。

まちづくりと芸術プロジェクトの連携を図る研究を進め、成果を地域社会に還元することは、地域社会の文化的育成を図ると共に、大学の知的財産を広く社会に寄与していくものでもある。実際、「福島ビエンナーレ」では、相互友好協力協定を締結した福島県文化振興事業団からの参画や、会津美里町、湯川村、二本松市との交流提携を生み出す契機ともなってきた。

地域づくりの土台は人づくりということの基本に、これまでの活動で構築した「産」「官」「民」「学」のネットワークをもとに、芸術文化と伝統文化の関係による豊かな精神性を育むことは、「21 世紀の新しい生活圏」の創造を目指し、地域住民の生涯学習などの文化活動を様々な角度から支援する機会も提供することにもなるだろう。

福島大学 芸術による地域創造研究所の研究員は、美術、文学、言語、音楽、地域行政、経済など、様々な専門を持つ教員で横断的に構成している。また福島県立博物館、会津本郷焼の伝統職人と一緒に、県内の文化施設、商店街の住民と広く関わり、「福島からの文化発信」の基盤を形成してきた。

福島の伝統文化と地域創造の育成を図るう

えで、大学の知的財産を広く社会に寄与し、「まちづくりと芸術プロジェクト」の連携を図る本研究所の企画は、地域力を有した活動として、全国区の学会等でも広く紹介されてきた。

福島大学芸術による地域創造研究所は、次世代を担う若い人たちが魅力を感じ、新しいものの見方や問題を提起する活動を促進していくための地域創生に積極的な関与をしてきた。今後とも地域にある大学という場を活用し、福島県をはじめ国際的な芸術文化活動をソフトの面から支援しつつ、福島から全国へ発信する文化の基盤を形成するとともに、地域連携を強め、国際交流する機会を設けるなかで、芸術による地域創造を広く繋げていく活動へと展開していく。